

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

(1) 1～3. 新カリキュラム履修第1期生である2007年3月卒業者を対象にアンケート調査を行い、その結果をもとに新カリキュラムを検証して、その改善を検討している。
4, 6. 大学全体の合意に沿って検討を進めている。
5. スペイン語開講を検討中である。中国語は2007年度には7クラスを開講しているが、希望者の6割が履修できるとどまっているため、さらなるクラス増を大学に要求している。朝鮮語は2007年度には3クラスを開講し、希望者全員が履修している。
7. ライフデザイン科目群中の該当科目に加えて、2008年度設置予定の地域政策コース(経法連携コース)に「地域インターンシップ実習」を開講する予定である。
8. MDS履修登録者は、旧カリキュラム履修者である2001年3月から2006年3月までの卒業者では平均8.5名(うち修了者は平均2.3名)であったが、新カリキュラム履修者である2007年3月卒業者では22名(うち修了者は9名)に増加した。ジョイント・ディグリー制度の利用者はなかった。この状況を改善するためには、ジョイント・ディグリー制度に関する説明の充実を検討すべきである。
(2) 上記のほか、生涯学習については、ライフデザイン科目群の履修を促進してゆく予定である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(1) 4. 法学部独自の取り組みは、大学全体の取り組みを前提として議論を進めてゆく。

学内第三者評価

2003年度からコース制を導入し、2006年度から新しく始まった学科別入試制度とも連動させて、カリキュラムにおける専門性と多様化の両面から充実を図るべく意欲的に取り組んでいることは評価できる。基礎演習、人文演習、研究演習に加えて教養演習やコース特別演習を新しく設け、少人数教育の充実にも力を入れていること、言語教育科目においては、選択必修科目の語種の増加や中国語のクラス数の増加など、学生のニーズに応える努力をしていることが評価できる。

2003年度に設定した目標の4「ネイティブの英語教員を活用した英語教育プログラム」について2005年度の自己点検・評価を含めて記述がなく、進捗状況の記述が求められる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・新カリキュラム履修第1期生のアンケート結果の分析が待たれる。MDS履修やジョイント・ディグリー制度など、新しい学士課程教育に対する積極的な姿勢は評価できる。趣旨が生かされるように、広報や説明の機会が増えることが望まれる。